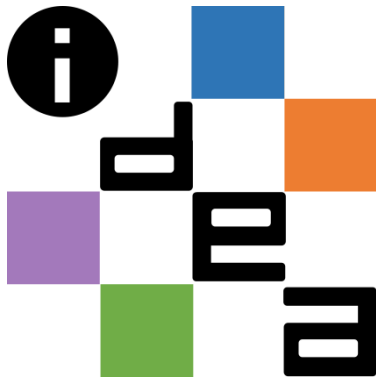


NPO・行政・企業・地域の情報発信により、アイデアと出会いの機会を創ります。

ニュースレター アイデア



2017

9月号

つながり×ひろがる

いちのせき市民活動センター



- | | | |
|---|---------|--------------------|
| 2 | 二言三言 | 地域の歴史を地域で守り、未来へ |
| 4 | 団体紹介 | 一関・英語多読を楽しむ会 (一関) |
| 5 | 地域紹介 | 大東 羽根折沢自治会 (大東) |
| 6 | 企業紹介 | 有限会社 佐藤電機 (花泉) |
| 7 | センターの〇〇 | センターの自由研究 一関市の長屋門② |

地域の歴史を地域で守り、未来へ

対談者 油島なのはな協議会 地元学研究部会 山川純一さん
聞き手 いちのせき市民活動センター センター長 小野寺浩樹

古文書や絵図が多く残るまち一関

【小野寺】山川さんとは、地域づくり計画策定ワークショップの時に出会ったのですが、改めて山川さんについて教えてください。



油島なのはな協議会
地元学研究部会
山川純一さん

【山川】私は栃木県の壬生町出身で、歴史に興味を持ったきっかけは、小学5年生の時にあった地域調べ（史跡などを見てその絵を書いたり説明をメモしたりする）の授業でした。同じ頃、友達から「土器が拾える所があるから行って見ないか」と誘われ、行って土器や石器を拾って「すごいな！考古学を勉強したいな」と思ったんです。そんな思いを持ち続けて仙台の大学に進学し、そこで特に古墳時代について勉強しました。大学を卒業してからは多賀城市、栃木県の埋蔵文化財（調査）センターで嘱託・調査補助員として働き、その後は東京の発掘調査をする会社に10年勤め、仙台市で仕事をしている時に妻と知り合い結婚しました。平成22年、仕事が一区切りしたというタイミングで、退社して妻の実家がある油島に引っ越すことにしたんです。

【小野寺】なるほど。実際一関に来てみて7年、生活はどうですか？

【山川】もともと、隣接している奥州市や栗原市・登米市・気仙沼市に先輩・後輩がいて、ちょくちょく行き来していたので土地勘はありました。市役所にゼミの後輩が勤めてたんですが、私が一関に来たという情

報を聞きつけて「非常勤職員を募集しているから応募してみませんか？」と声をかけてくれて、平成23年からは生涯学習文化課・文化財課で6年働きました。昨年度一杯で任用期間が満了となったので、現在は、岩手県埋蔵文化財センターの期限付調査員をしています。

【小野寺】では、油島でワークショップを行っていた時は、山川さんが一関に引っ越してきて3年目くらいですか？

【山川】4年目ですかね。まだ、油島なのはな協議会が立ち上がる前でしたね。

【小野寺】僕はワークショップで山川さんと知り合い、お話を聞いてすごく面白い方だなと思ってました。

【山川】一関は特に古文書や絵図が残されている地域で、昔の絵図と今の地域を見比べてもほとんど変わっていない所もあるんです。開発が進んでいる私の地元からしたら、凄いことです。

一関の古文書や絵図を調べているうちに「自分のことも調べられるかも」と思い始めて、役所で古い戸籍をとって系図をつくることもやってみました。一関にずっと住んでいる家であれば、誰でも江戸時代のご先祖まで戸籍を遡って調べられますから。すると、〇〇の家とは何代前は親戚だとかがわかりますよ。自分がどの地域のどこの家の誰と繋がりががあるのか、一度再認識することは重要じゃないかと思っているので、そんな系図づくり講座をいつかやってみたいと考えています。

【小野寺】それは面白いですね！ぜひ協議会でやってください！

【山川】最近の地元学研究部会では、地域の航空写真とか地形図とか、手に入れられるものを入手してから、それを田畑とか宅地を色別に塗り分け、いつ新しく道路ができたとか川の流れが変わり橋ができたとか、そんな地域の変遷を調べられればと思っています。

【小野寺】まずは情報収集からということですね。

先人たちが残してきた歴史の記録

【山川】誰が見ても明らかに古い物は、皆さん「残さなきゃ」と思うようですが、近代（明治～戦前）・現代（戦後～現在）の物は我々の生活と同化しているからか捨ててしまう方もいらっしゃるようです。

【小野寺】極端に古いものであれば「残そう」となりますが、中途半端に新しかったり古いものだとして捨てちゃうんですよね。

【山川】一関のまちなかにも明治～戦前の建物もかなりあったようでしたが、だいぶ少なくなってますよね。なるべく残すように方法を考えると、もし壊してしまうなら、記録をとってから壊すとか。私たちの活動がそういうものを残す一つのモデルになればと思っています。

【小野寺】素晴らしいですね。ワークショップの内容がそのまま生きて動いてる。

【山川】昔の集合写真やネガだって貴重な資料ですよ。写っている人は会ったことがない人でも、もしかしたらご先祖様かもしれないし。いまのうちに高齢の方々に写っている人を聞いておかないと。

その人が亡くなってしまったら“記憶”は消えてしまいますが、“記録”は残すことができます。昔の人達はそれを古文書として記録し代々残してきましたが、一関では特にそのような意識が高くどの地域でも古文書や絵図が残っている。絵図を見れば地域的なまとまりもわかりますよ。



地元学研究部会の活動で「蒲沢堤」に
標柱を設置した時に撮影した一枚

地元学研究部会の取り組み

【小野寺】地域づくりは色々な視点からできますが、山川さんのように地元学とか歴史的なものが得意な方がいれば、地域のルーツを探っていくことによって色々と枝葉が広がっていくと思います。山川さんが所属している協議会の地元学研究部会は率先して事業を進めていると聞きましたが、メンバーの皆さんはどんな方なんですか？

【山川】ほかの部会はあて職が多いようですが、地元学研究部会は興味をもって参加してる方が多いです。

【小野寺】有志のメンバーなんですね。

【山川】もともと協議会が始まる前に、元気な地域づくり事業を2年間やっていたので、その延長で参加している方が多いのかな。その時はお宝マップを作ったりしました。地元学研究部会は10年先まで計画を定めていますが、遅れも出てきているし、きっと10年では終わらないなと。でも、年度ごとの記録集は、今年から毎年出していこうと考えています。地域の各家に残っている古文書や歴史的な物を残すために、どこに何があるのかを地域で知っておけば、災害で壊れたり、水に浸かったり、汚れたりしても捨てずに残さなきゃと思ってもらえると思うので。緊急時などに地域の方が「そういえば〇〇の家のあれどうなった？」って気にかけるようになることが重要なんですよ。



【小野寺】地域に何があるのかを、地域で知っておくことが大切なんですね。

【山川】そうです。各家にある物をお借りして、写真に撮ったり複製させてもらった後にお返しします。よければ寄贈していただいてもかまいませんが、保管場所や管理の課題がまだ解決していなくて。でも、いずれ今残さないと、家が代替わりした途端に「こんなのいらない」と一気に処分されてしまうこともありますので。

【小野寺】山川さんたちの活動を聞き「私たちの地区でもやりたい」と、動き出すところが出てくるといいですね。話が広がっていくのはすごくよいことだと思います。

【山川】ご連絡をいただければ、どんな風にやったらよいか私たちが持っているノウハウを伝えられればと考えています。

【小野寺】それはありがたいですね！こういうことは油島だけじゃなく他の地域でも必要ですからね。

【山川】それぞれの地域で同じような取り組みが広がれば、非常に面白いことになると思います。

基本情報

【油島なのはな協議会 事務局（油島市民センター）】
住所：〒029-3207 一関市花泉町油島字上築道 34-1
TEL & FAX L:0191-82-4371

団体紹介



代表 原 宏行 さん

～基本情報～

- ◆代表：原 宏行 さん
- ◆HP：<http://itadoku.jimdo.com/>
- ◆連絡先：上記HPの「お問い合わせ」へ
- ◆活動日：毎月第3土曜日・13:30～15:30
毎月第2火曜日（10月以降は第2水曜日）
17:30～19:30
- ◆活動場所：一関図書館

ゆっくり楽しみながら続けること

小野寺さん×原さん×小野寺さん

平成27年に一関図書館が「多読」支援の第一人者である酒井邦秀先生らを迎え、3回シリーズで開催した「図書館 de 英語多読講座～やさしい英語の絵本から始めませんか～」には、48人の定員がいっぱいになる参加者が集まったそうです。その講座の最終回で受講者の一人が、講座修了生が集まって交流する会の結成を呼び掛け、賛同した14人でスタートしたのが「一関・英語多読を楽しむ会」です。今回は、会の代表を務める原宏行さんにお話を伺いました。

原さんは会の結成を呼び掛けた本人であり、会のキーマンですが、原さん自身は「会の結成に賛同してくれた皆さんがいてくれたからこそ生まれた会。ただ、他にも2人の方の協力に支えられた幸運もあった」と語ります。その1人は当時一関図書館に在籍し、英語多読について知識を持っていた司書の小野寺悠さん（現川崎図書館）。冒頭の講座の企画・運営に携わり、英語多読を市民に知ってもらおうきっかけを作りました。もう1人は当時の一関図書館長小野寺篤さん。「活動場所として一関図書館を借りられたこと、一関図書館の英語多読の蔵書数が全国トップクラスであることなど、結成当初から恵まれた環境で活動できたのは、小野寺前館長の英語多読への理解と配慮のおかげ（現在も図書館の協力は継続されています）」と振り返る原さん。

引かない×飛ばす×やめる

英語多読は、易しい本から始めて無理なく沢山の英語の本を読み進めていく方法で、その為に英語多読の本には「YL（読みやすさレベル）」が表記されており、本を選ぶ目安になります。「英語力に関わらず最初は絵本からスタートするのがおすすめ」と語る原さん。絵本には単語や文章の意味が絵の中に描かれているので

で読みやすいのと、文字がとても少ない絵本からスタートすることは、今まで学んできた英語の知識をある意味で「なかったこと」にしてゼロから出発するという考え方がその理由。「ゼロからスタートして1年、2年と続けた方の英語力が伸びて、『もうこのレベルの本を読めるようになったの?』と嬉しい驚きを感じることもある」という原さんは、「英語多読をゆっくり楽しみながら続けることが会のモットー」と語り、「まさに継続は力なりですよ」と笑顔を見せます。

また、「（辞書を）引かない」「（わからない所は）飛ばす」「（つまらなくなったら）やめる」という英語多読3原則は、英語に慣れ親しむために楽しく沢山、なるべく英語ばかりの世界に入るために、邪魔になりそうなものをうまく排除してくれます。

ゼロスタート×1人×仲間

会の活動は月2回の交流会。前半の1時間は英語読書で各自好きな本を読む時間。後半は、読んだ本の紹介や英語多読の疑問や悩み、ノウハウの情報交換など。原さんは「英語多読は1人でもできるが仲間と一緒に長く続けやすい。それでも会員の数はまだ少ないのが現状。今後は、会の存在を知らずに英語の本を読んでいる方や、英語をいつか学びなおしてみたいと思っている方にも会の存在を知ってもらい、一緒に楽しみながら交流し、英語力の向上に繋げていけたら。そして様々な年齢層に『英語多読』と『一関・英語多読を楽しむ会』が広がりを見せて皆さんの英語多読のお役に立てれば」と、現状と今後を見据えています。

「1千万語を達成し、様々な文化圏の人と英語で会話できる」これは累計460万語読んだ原さんの目標ですが、まず私達は「ゼロからのスタート」で、絵本から楽しく始めてみませんか？



図書館での交流会の様子

地域紹介



自治会副会長 佐藤甲子夫 さん

～基本情報～

- ◆自治会長：牧野茂太郎さん（1期2年目）
- ◆一関市千厩町から大東町を通る国道 456 号から千厩町奥玉方面へ向かう途中に羽根折沢自治会があります。神亀3年（726）に「水晶」が発掘された集落として知られ、住民の集いの場「水晶館」の由来ともなっています。

住民に活気を与える～人を呼び込む魅力ある行事の開催～

大東町 地縁団体第1号の自治会

平成12年に、大東町第1号となる地方自治法の規定による「地縁団体」の認可を受けた羽根折沢自治会。

「活力と魅力に満ちた住みよい地域づくりの推進」を目的に掲げ、「まだどこでもやっていないような行事」を取り入れながら住民の交流を図っています。

自治会組織の前身は、昭和33年に地元で稚蚕共同飼育所を開設し、そこに摺沢公民館羽根折沢分館が併設され、集会所として利用してきたことが始まりです。当時は農繁期に季節保育所も開設されていました。

「現在の世帯数は50世帯、その数は昔とほとんど変わらないが、人口は目に見えて減少している。昭和50年代は子どもの数が多く、運動会、夏祭り、親子映画会など子どもを中心とした自治会行事が多かった。現在小学生は0人。高齢化率はどんどん高くなってきており部落大運動会などは内容を見直し高齢者でも楽しめる内容に工夫してきた」と語るのは自治会副会長 8期目を務める佐藤甲子夫さんです。

地域外から人が集まるおもしろ行事

昔から「誰もやったことない行事を考えることが好きな住民が多かった」という同自治会。昭和58年から10年間開催した夏祭り花火大会も当時どこの集落でも企画していなかった行事の一つ。あまりの盛大さに、大東町から「町全体のお祭りにしたい」との申し入れがあり、開催11年目を迎える年からは大東町民まつり花火大会として発展しました。

その後、集落の特徴や資源を活かした行事として、りんご畑でのお花見会や羽根折沢かし祭り、そばの共同播種作業と水晶そば手打ち会、夏祭りの復活などを経て企画されたのが、「どろんこバレー大会」です。

「どろんこ」は子どもの大好きな遊びの一つ、「バレー」は、町内の大会で数々の優勝を手にしてきた住民の特技。これを掛け合わせた自治会の大イベントです。

今年も8月6日に開催した「2017 どろんこバレー in 羽根折沢」には地域内外を問わず多くの方が参加。

初開催では集落内の休耕田活用と住民の交流を目的とした自治会行事でしたが、「もっと広めて多くの人に羽根折沢に来てもらおう」という思いから翌年から市内外へ情報発信。「体験してみたいと思っていた」という声が多く今年は地元1チーム、地元外7チーム、合計8チームで競い大盛況でした。「集落の人口減少や高齢化などを考えると、自治会内だけでは“できること” “できないこと”が見えてくるが、外から人が集まることで集落に賑わいもたらし、それをきっかけに住民同士の交流も図ることができる。手作り感満載のどろんこバレーは、競技への参加だけでなく、高齢者や小さな子どもたちは応援することで参加し楽しんでもらっているようだ」と佐藤さんは語ります。

住民の拠点 水晶館

平成13年4月に落成となった新集会施設「水晶館」には、玄関を入るとすぐに“囲炉裏”があることが特徴的です。またシャワーや浴室も完備しており行事終了後の泥落としもスムーズで外から人を呼び込むための魅力の一つ。「今後も人口減少や高齢化を考えながら、人が来てもらえる集落づくりのきっかけとしての行事を継続し、活力と魅力に満ちた住みよい羽根折沢だと言ってもらえるよう努めていきたい」と最後に力強く語っていただきました。



賑わいを見せたどろんこバレー

企業紹介



代表取締役 佐藤 脩 さん

～基本情報～

◆代表取締役：佐藤 ^{おさむ} 脩 さん

◆連絡先：〒029-3205

一関市花泉町涌津字ニッ檀 17-44

◆電話：0191-82-3459

◆FAX：0191-82-5537

従業員のアイディアから生まれた、時代に必要とされる商品への思い

故郷へ戻る転機と起業の決意

「花泉町で変わったお風呂を造っている企業がある」という話を聞き、向かったのは花泉町涌津地区にある有限会社佐藤電機さん。主要製造品は工場で使用する半導体製造装置そのもので、商品のほとんどが海外へ輸出されています。また、自社商品として、要介護者がベットを移動することなく入浴できるエアー簡易浴槽“ニッコリおふろ”や畳の上でも入浴可能な日本初の洗髪器付き浴槽“湯ったりおふろ”、災害用品として移動式ガス給湯器や避難生活向けエアーマットの製造販売も行っています。

同社代表取締役の佐藤脩さんは、地元の高校を卒業後、「三男だから地元へは戻らないだろう」という思いで上京し就職しましたが、その7年後に大きな転機が訪れました。

それは、両親から届いた一通の葉書でした。その内容から、家の一大事を察し佐藤さんは家を継ぐため帰郷を決意。「戻ることはないだろう」と感じていた故郷へUターンしたのは25歳の時でした。しかし、戻っては来たものの、地元には生活の基盤となる賃金を得るための働く場、仕事が少ないという現状を目の当たりにしました。そこで、“ないなら会社を立ち上げよう”と思い立ち、以前の職場で覚えた半導体製造のノウハウを活かせる製造工場を昭和53年に立ち上げました。

自社商品への挑戦～進むべき道～

起業後は、着々と実績を上げ一時期は従業員60名を抱える企業へと発展し、平成9年には従業員のアイディアを基にした自社商品の開発・研究を進めるべく商品開発部を立ち上げました。

将来的な時代背景を考え「介護分野」に参入を決め、介護・介助を必要としている方々や支援している方々が一番の課題とを感じる事であろう“入浴”に着目し、平成10年以降に、エアー簡易浴槽を商品化しました。

東京ビッグサイト（東京国際展示場）で開催された介護関係展示品では岩手県内の介護関係用品として2年連続出展し高評価を得ることができましたが、「高評価を得ることと実際に売れるということは別物」と語り「着目点や機能性・利便性どれをとっても素晴らしい商品でしたが当時の売れ行きは思うように伸びませんでした」と当時を振り返ります。

しかし、ある時期から附属の移動式ガス給湯器が単品で売れ始めました。それは、平成16年の新潟県中越地震以降の災害での需要がきっかけとなったのです。「電気と水道があればどこでも無制限でお湯が利用できる移動式ガス給湯器は体育館など避難生活の入浴時に便利だと必要性が認められ多くの問い合わせがありました。また、東日本大震災後は移動式ガス給湯器についての独自アンケート調査を行い、その必要性を再確認。その重さを20kg程度の小型化にも成功したのです」と佐藤さん。現在も全国各地で有限会社佐藤電機さんが開発製造した商品が多くの人々に生きる力を与えているのです。

新たな世代にバトンをゆだねる

現在、工場縮小に伴い従業員は10名ですが30歳の若い方が多く、子育て中のママも活躍しています。起業から38年、自身が身をもって感じた「地元に戻っても仕事がない」という現状から目を背けず、「ならば自分が起業し地元の方々が安心して働ける場を提供しよう」と無我夢中で運営してきた佐藤さん。現在は現場（工場）から少し身を引き趣味の活動を楽しんでいるのだとか。

「後継者も育ち、安心して現場を任せられる従業員ばかりです」とにっこり微笑みます。



有限会社佐藤電機工場入り口

センターの ○○!



東山町松川地区 千葉さん宅の長屋門

今回は、長屋門とは何か？地域内には、どのくらい長屋門があるのか？長屋門と中門は同じ意味なのか？など調べた結果を掲載しました。

今回は長屋門（中門）のあるお宅にお邪魔し、間取りや当時の使われ方と現在の使われ方について調査してきました。

長屋門（中門）の間取り

注：イラストは調査した中門を基に総合し独自に作成したものであり、聞き込みしたすべての中門がイラストのような間取りになっているものではありません。

旧東磐井郡では葉タバコの作業場として使用していたとの回答が多く、東と西で意見が割れました。

使用人を住まわせていたところもありました。

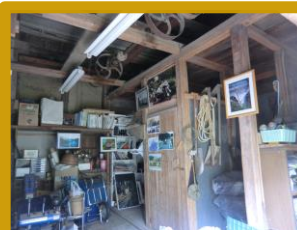
1 階

当時の農業機械は庄屋や本家などの家柄で購入し集落で共用していました。

現在の様子

2 階

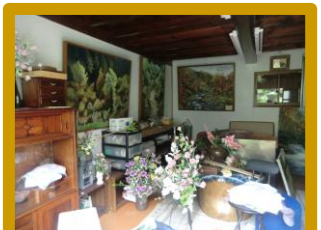
門の中で牛や馬を飼っており、「中門馬屋（厩）」と呼んでいるところもありました。



当時のままの
状態で物置に



改装し駐車場と
工具置き場に



完璧なりフォームで
趣味部屋に

長屋門（中門）のまとめ

今回、長屋門（通称中門：以下「中門」）の間取りについて、実際に中門を見せていただきお話を伺ったのは 16 軒。それぞれのお宅で「地域の中で同じような門は他にもありますか？」と伺ったところ、「3～4 軒くらいかな？」という回答が多く、調査したお宅を含め市内には少なくとも 60 軒の中門があるのではないかと予想できました。

東山町の田河津振興会会長のお話によれば「明治大正時代、田河津の庄屋・本家と呼ばれる家には中門があった」とのことで、各地域での調査を総合しても、中門を建てた時期は江戸時代末期～明治時代初期が最も多く、庄屋や本家、大地主で田畑を多く所有している家柄に中門があったようです。

中門の役割や利用方法としては、作業場（米つき機械や農耕機の保管場所含み）、きつづ（籾蔵）、門を挟んで家畜を飼う部屋だったという回答が多く、2 階のある中門では

小作人たちが作った米などの保管場所のほか、人が住んでいた（1 階に住んでいたというお宅もあり）、養蚕・葉タバコの作業部屋などとして使用していたとの回答がありました。ちなみに、花泉地域の熊谷さん宅では、中 2 階があり、そこに相続とり（その家の財産の一部をもらうまで住み込みで働く人）が住み、穀物が盗まれないよう番人的な役割も担っていたのだそうです。

聞き込みによれば、他地域でも「使用人や奉公人、所帯を持った働き手の住まいだった」というお話しも多く、2 階建ての中門に限らず、人の住まいとして使用されていたこともわかりました。

現在は、中門を車庫や物置、改装して家主の趣味部屋などに活用しているお宅が多く、市外では歴史的建物を活かしたカフェやギャラリーとして、人の集える施設に生まれ変わった中門もあるようです。

おしらせ

千厩

第21回 黄金の国陶芸展

岩手県南・宮城県北で活動する陶芸家12名が集まり、作品の合同展示・即売会を行います。花瓶や飲み茶碗など、個性豊かな作品の数々をご覧ください、その場で購入することができます。お茶会、カフェ、チャリティーセールも同時開催します。

【期間】平成29年9月9日(土)～11日(月)
【時間】10時～17時 ※11日は16時まで
【場所】千厩酒のくら交流施設
【料金】入場無料
【問合せ】0191-21-8412(市役所商業観光課)

一関

ヨソモノさんいらっしゃい
「ヨソモノさん VISIT」

他の市町村から一関市へお越しただいた方(ヨソモノさん)で実際に地域を歩いてみよう！地元の方のご案内で地域を散策しながら、ヨソモノさん目線の気づきやアイデアを地域に活かします！散策の後はランチ交流会を行います。※先着10名、9月1日(金)までにお申込ください。

【日時】平成29年9月9日(土)11時～14時
【場所】弥栄地域 平沢地区内
【参加料】2,000円(交流会での飲食代込)
【問合せ】0191-26-6400
(いちのせき市民活動センター)

川崎

第23回北上川流域交流
E ポート大会

各地から集まったチームたちがタイムトライアル方式でボート競漕を行う「第23回北上川流域交流Eポート大会」を開催します。特設ステージではわんこもち体験ほか、会場周辺では佐々木牧場の凧ちゃん馬車も運行。参加チームを応援し、大会をさらに熱く盛り上げよう！

【期日】平成29年9月10日(日)
【場所】北上大橋付近の北上川
【料金】入場無料
【問合せ】0191-36-5666(実行委員会事務局)

一関

いまさらナイト
～「NPO法人」の設立から毎年の流れまで～

「今さら聞けない『NPO法人』あるある」と題し、NPO法人の設立の流れや設立後の各種手続き、事業を継続していくための考え方などを改めて確認していきます。
※9月9日(土)までにお申し込みください。

【日時】平成29年9月13日(水)
①9時30分～11時 ②19時～20時30分
※昼・夜の2回開催ですが、内容は同じです。
【場所】なのはなプラザ4階 共同会議室
【参加料】無料
【問合せ】0191-26-6400(いちのせき市民活動センター)

川崎

来て・見て・発見
一関おもしろ館

手焼きせんべいや和菓子づくりなど、市内の特産品づくりを体験できる「来て・見て・発見一関おもしろ館」を開催します。
10時からはおもちつき振舞いやお楽しみ抽選会、12時・15時には特産品オークションも行います！新鮮野菜や果実及び特産品を販売する「産直市」もお楽しみに。

【日時】平成29年9月17日(日)10時～16時
【場所】道の駅「厳美渓」
【料金】入場無料・体験料有(材料費として)
【問合せ】0191-21-8412(市役所商業観光課)

一関

時の音FESTIVAL

地域活性化や一関のPR等を目的とした音楽・クラフト・飲食等の複合型イベントです。ステージでは時の太鼓・炎舞、ゲイマンショーなど13のプログラムがあり、雑貨・スキンケア・似顔絵・占い・お子様が遊ぶフリースペース等も充実。無料の楽器体験や大抽選会もごさいます。景品は一関産物です。ぜひ遊びに来てください！

【日時】平成29年9月17日(日)11時～17時
【場所】山目市民センター(体育館)
【料金】入場無料
【問合せ】080-4274-2342(時の音プロジェクト)

千厩

第15回みちのくせんまや
赤ちゃん相撲大会

子どもの健やかな成長を願い、生後6か月から1歳半までの豆力士(赤ちゃん)が相撲を取り組む「赤ちゃん相撲大会」を開催します。大正時代から地域に伝えられてきた「花相撲」もお見逃しなく。たくさんのご来場・応援お待ちしております！

【日時】平成29年10月8日(日)
午前の部:10時～ 午後の部:13時～
【場所】千厩町愛宕神社神楽殿
【料金】見学無料
【問合せ】090-1930-3985(菅原)

千厩

千厩きもの物語

みんなで着物を着て、本町通りの魅力を再発見しよう！着付け舞鑑賞、集合写真撮影、着物掘り出し市など着物を楽しむのにぴったりなメニューをご用意しています。(同日は本町通りで、アートイベントや陶芸展なども開催予定です)

【日時】平成29年10月14日(土)
9時30分～受付 10時～開会
【場所】千厩酒のくら交流施設 集合
【参加料】800円(集合写真、抹茶券付)
【問合せ】0191-52-2043(千厩着物虫干し会)

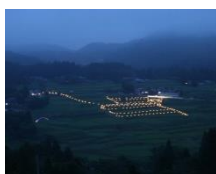
全域

「イマカラ」登録者募集

いちのせきの市民活動スタッフバンク、通称「イマカラ」は、一関市内で開催されるスタッフを募集したいイベントと地域で活動したい人をマッチングする仕組みです。当センターのホームページ内「いちのせき市民活動スタッフバンク」のページから無料のスタッフ登録をすると、スタッフを募集しているイベント情報が随時メールにて配信されます。※一関市在住の18歳以上の方がご登録できます。

【問合せ】0191-26-6400
(いちのせき市民活動センター)

今月の表紙



8月11日に舞川地区で行われた「第1回ほたる火まつり」の様子です。舞川13区の小塚棚田を縁取るように手作りの灯籠約300個が吊るされ、日没と共に幻想的な風景が浮かび上がりました。地元住民を中心に、遠くからは盛岡からなど多くの方が足を運び、温かいともしびの灯りに見入っていました。

Q & A

あなたの「知りたい」にスタッフが答えます

Q

ワークショップの時に聞く「ワールドカフェ」って何ですか？

A

ワールドカフェは自由な発想で多くの意見を集めたい時に用いるワークショップの手法です。3島以上で話し合う時に使用できる手法で、時間を区切り各島の1名を除くメンバーがほかの島に移動し、移動先のテーマに沿ったアイデアを深め、また時間になったら移動することを繰り返し、最後に元の島に戻ります。同じ人での話し合いはアイデアが固まってしまいがちですが、話し合う人が変わることによってアイデアが膨らんだり掘り下げたりすることができます。

